

## 実質化された人・農地プランの更新に関する意見

- 方法 実質化された人・農地プランの更新に伴い、書面により意見聴取した。
- 期間 令和4年3月7日（月）～令和4年3月18日（金）
- 対象者
  - ・小牧市農業委員会委員
  - ・小牧市農地利用最適化推進委員
  - ・認定農業者
  - ・認定新規就農者
  - ・多面的機能支払交付金活動組織
  - ・JA尾張中央営農企画課

## 1 実質化された人・農地プランの更新について

## 東部地区

- ・（2. 対象地区の課題について）相続により地主が分散化、耕作放棄に罰則がない為、山村化の地域もある。
- ・よくできたプランである。
- ・認定農業者の中にも、後継者不足の悩みがある。
- ・認定農業者の法律の促進を願う。
- ・何度も何度も地域の話し合いが重要である。
- ・内容が良く分からない

## 西部地区

- ・市街化地域と調整区域の農地の区別を明確にするべきである
- ・小牧市農政課と尾張中央農協が1つになり、小規模農業者及び未経験者達と共に野菜等を作付ける。（販売を含む）

## 2 地域の農業に関する課題や解決策について

### 東部地区

- ・農地の貸借に関して、闇小作の実態では問題が発生しやすく、それが要因で放棄地に発展している。農地中間管理機構を通しての土地集積が一番なのだが、利点が分かっていないのが実情。又、担い手となる認定農業者の繋がりが無くて地域の受け皿としては知名度不足になっているので広報活動がもっと必要と考えます。
- ・大山地区でも、高齢化が進み、今以上に耕作放棄地が増えないか心配です。
- ・台風の大型化やゲリラ豪雨、突風など気象条件も昨今ひどくなるばかりで、農業者にとってはマイナス要因ばかりです。
- ・石油製品の値上り、エネルギーの値上り、ビニールの値上り、肥料の値上り、農薬の値上り、農薬をとりまく環境は厳しくなるばかりで、一概に耕作放棄地の解決は難しい。
- ・大山地区は、イノシシが多く出没。電気柵の設置により被害がなくなった。しかし、アライグマ、ハクビシン、タヌキ等の被害が出ている。
- ・当地区も後継者不足に悩み、水田は99.9%が委託となっている。
- ・ほとんどの新規で農業したい人達は、どこに相談すればいいか分からないと思います。認定新規就農制度について、農業に関係する高校や大学、農大にもう少しアピールすれば、耕作放棄地の畑など利用者が若干増えたりしないでしょうか。
- ・鳥獣被害の増加
- ・水田のパイプの老朽化による破損や不具合
- ・亜炭鉱の跡の農地の陥没
- ・地域住民の協力
- ・「鳥獣害」の対策とは聞くものの、イノシシばかりに注意を払われている様だが、カラス被害の方がより深刻であり、早急かつ実効性のある対策の策定を切に希望します。
- ・近隣の放棄地の草が自園地に侵食している。クズ等、草刈に苦勞する草が多く、

仕方なしに他人の土地の草刈りをしているが、労力・費用もかかり、やり切れない思いをしている。法律等の制約があるのは分かるが意欲減退している。年々ひどくなっているが、この傾向が続けば耕作をやめる可能性すら考えるようになってくる。

- ・ 高齢化何とかしないといけない。
- ・ オイル高、資材高騰、農産物の価格低下で、行政・JAのサポートが必要。
- ・ 農業者の高齢化により、委託田が耕作放棄される田が多く出来ている現状があるが、委託田を受ける農業者が現状ではない状態がある。このままでは放棄田が増えることが考えられる。
- ・ (余談として) 後継者不足の要因に少子化問題も少なからず含まれていると思われませんが、それはさておき社会経済の発展は、物・心の豊かさをもたらし、主食・副食にかかわらず、スーパー等に出かければ世界各国の品が手に入る状況があります。自作(自国)農作物でなくても満足を抱かせるようになり、農地の維持管理は残され、残された農地を守るため、高齢といわれる農業者が人手不足・力不足を解消するため機械にそれを求め、維持管理をしている。これもしかたないことと思いますが、高齢化により作業等が出来なくなると、若者・息子たち等に助けを求め、頼まれた若者・息子たちも機械の使い方はすぐ理解できても、苗の作り方まで教えてもらっても時間が足りないあるいは手間がかかりすぎる現実があり、購入すれば費用がかさむ、また時間もかかるため、先述したとおりスーパー等で購入する、悪い選択ではないが、しかたないと思います。次世代が主役となるまでは、これまでと違い、人生の節目となる「定年」一つを捉えても、一昔前は55歳定年、今は60歳定年、65歳まで再雇用、もう次には70歳といった声を聞く現実がありますので、やはりこう作業を行うことに無理を感じず年齢でようやく時間ができることなど考えれば、放棄地を少なく、あるいは無くすには、集団もしくは大規模以外できないように感じます。それとて、うれしいことではありますが、うまく次世代に引き継げた農地がポツン、ポツンと所々に発生してしまうと、一体での取り組みが難しくなります。しかしながら、農地を維持するには、個々の対応には無理が生じ、時がたてば荒れ放題となることを考えれば、や

はり集団化、あるいは大規模での取組しかないように感じます。

#### 西部地区

- ・現在の農地管理者（65歳前後で耕作中）に、今後のことを尋ねると、いずれは尾張中央農協へ依頼する予定であるとのことであった。
- ・委託業者による雑草駆除がされていない
- ・生活排水が用水へ入ってくる
- ・ジャンボタニシの被害
- ・地域住民の協力や理解
- ・水田の水供給が少ない（特に多気地区）
- ・水路が工場で溝さらい等ができず、水が停滞している。
- ・農地を集積し、田んぼの枚数を減らし、作業効率化を図る。
- ・市街化区域の農地において苦情が多く、やりにくくなっている。
- ・ポイ捨てのごみが多い。
- ・路上駐車が農作業以外が目立つ。作業に行っても入れない事がある。
- ・農作業している横をすごい勢いで車が通過することがあり危険である。（道路が狭く、渋滞迂回のために入ってくると思われるが）